



“サル団子”でぬくもり、 分かち合います。



詳しくは
3面へ

淡路島モンキーセンター (洲本市)

新型コロナウイルス感染症

感染が急拡大しています。基本的な感染対策の徹底をお願いします。

これまでの長期間にわたる医療従事者の皆様のご努力、県民・事業者の皆様のご協力に感謝を申し上げます。
感染力の強いオミクロン株による感染が急拡大しています。

これ以上の感染拡大を阻止し、医療ひっ迫を防ぐためにも、引き続き、マスクの着用など基本的な感染対策の徹底にご協力をお願いします。

基本的な感染対策

- ▶ 3密の回避(ゼロ密)、手洗いや消毒、換気など基本的な感染対策を徹底してください。
- ▶ マスク着用(不織布マスクを推奨)を徹底してください(障害や病気などによりマスクの着用が困難な場合を除く)。
- ▶ 体調が悪い場合は医療機関で受診し、感染の不安がある人は無料のPCR検査等を受けてください。

感染リスクが高い行動の回避

- ▶ まん延防止等重点措置区域をはじめ、感染拡大地域への不要不急の移動は極力控えましょう。
- ▶ 飲食は同一テーブル4人以内(コロナ対策適正店非認証店舗は同一グループ4人以内)、2時間以内としてください。

この情報は1月13日現在のものです。最新の情報に注意してください



●ネギ人生産組合
 ●080(4379)3181 (鎌田さん営業窓口)
 雷鳳 ネギマッコ



名付けて「TAJIMAネギマッコ」

若手農家が届ける太くて甘い白ネギです

積雪がある冬の但馬地域で露地栽培が可能な作物を探していたところ、県の普及指導員の方から白ネギを薦められ、平成30年に栽培を始めました。安定供給のためには仲間が必要なので知り合いの若手農業者に声を掛け、翌年、5人で「ネギ人生産組合」をスタート。付加価値として断面の直径が3センチ以上のものに絞り、商品名は「TAJIMAネギマッコ」に。太くするため、緑の葉の部分大きく育てることを意識しながら栽培しています。ネギマッコは体内の免疫をつかさどる物質を含む粘液「ヌル」が豊富で、食べれば免疫力がアップ。

熱を加えるとヌルがとろけて柔らかくなり、かむたびに水分と一緒に甘味が口の中に広がります。

現在は仲間も1人増え、知恵を出し合って品質の向上に努める日々です。組合全体の栽培面積は1.5㌔とまだまだ小規模ですが、いずれは100㌔まで拡大したいと思っています。
 (組合長 鎌田頼一さん)



中には断面の直径が4センチのものも。



組合メンバー(一番手前が鎌田さん)。

出荷は2月いっぱい(売り切れ次第終了)。インターネットでも販売。



伝えたい!と
 知りたい!をつなぐ

550万人の インフォ

特殊詐欺の被害に遭わないため 留守番電話機能を活用しましょう

高齢者宅の固定電話に市役所や警察等をかたって電話をかけ、預貯金やキャッシュカードなどをだまし取る特殊詐欺が多発しています。被害に遭わないために、在宅中でも留守番電話に設定し、電話がかかってきても相手や用件が分かるまで応答しないようにしましょう。(県警察本部生活安全企画課)

留守電
 ON!



●県警察本部生活安全企画課
 ●078(341)7441



三重塔をよく見ると三日月に 手を伸ばす猿の彫刻が

聖徳太子ゆかりの当寺に現存する最古の建物が、永禄8(1565)年に建てられた三重塔。1層と3層の四隅には意匠の異なる彫刻が施されており、その一つが三日月に手を伸ばす猿です。一昨年、SNSで紹介したところ反響を呼びましたが、実は誰



が何の目的で彫ったのかは分かりません。仏教には「無謀な行為が大失敗を招く」例えとして、猿の群れが井戸に映る月を取ろうと大挙して木の枝にぶら下がった途端、枝が折れて底に落ちたという話があります。おそらくこれが由来で、参拝者を戒めるために彫ったのでしょう。猿がどこにいるかは、お越しになってからの楽しみに。2月は太子の命日の22日㊦と翌23日㊧㊨に会式を開催する予定です。(副住職 前岡靖文さん)



「国指定重要文化財の三重塔をはじめ、貴重な建物や仏像が多数あります」

斑鳩寺
 ●太子町鶴709 ●079(276)0022 ●079(276)3433
 ㊦9時~17時 ㊧無料。宝物館と聖徳殿は各300円(共通券500円)

協調性の高いサルたちによる真冬の風物詩



昭和42年に開園した同センターでは、餌付けした野生のサル約300頭を間近で観察することができます。冬季の気温が低くて曇天かつ風の強い日、サルたちは寒さをしのぐために身を寄せ合い「サル団子」と呼ばれる集団を形成します。



餌を求めて集まるサルたち。

「他の地域でも数頭でつくことはありますが、数十頭が一つに固まるのはまれです。寛容で協調性が高いといわれる「淡路ザル」ならではの」とセンター長の延原利和さんは話します。群れは午前中に山から下り、日中は与えられる餌を食べたり毛づくろいをしたりしながら過ごして、夕方には帰っていきます。気象条件がそろえば、「サル団子」が見られるかもしれません。(取材・文 県民だより編集部)

淡路島モンキーセンター
洲本市畑田組289 ☎0799(29)0112 ☎0799(29)0345
☎9時30分～17時 ☎木曜(祝休日の場合は営業)
☎中学生以上700円、4歳～小学生350円

新型コロナウイルス感染症に関する差別・誹謗中傷の相談窓口を開設

昨年11月、兵庫県、神戸地方法務局、兵庫労働局、兵庫県弁護士会が「新型コロナウイルス感染症に関する差別的扱いと誹謗中傷を防止する共同行動宣言」に署名しました。1月20日(土)から弁護士による無料電話相談(面談も可)を受け付ける専用窓口を開設します。感染者や医療従事者、ワクチン未接種であることなどを理由に不当な扱いを受けている人は、一人で悩まず相談してください。

新型コロナウイルス感染症の差別に関する人権相談窓口
期間:1月20日(土)～3月31日(土)の木曜15時～17時
☎078(891)7877

PROFILE

大矢 勇氣 (おおや・ゆうき)

昭和56年、西宮市出身・在住。16歳の時の転落事故による脊髄損傷で下半身不随、両手指にもまひが残る。男子100㍍T52(車いす)のアジア記録を保持し、東京2020パラリンピックでは銀メダルを獲得。



競技用車いす「レーサー」に乗る大矢さん。(写真提供:末廣良治)



インタビューの詳細版はホームページをチェック!

県民だより くぐっと 🔍

力強くこぎ進める技術力が大事

一回のストロークで

兵庫県ゆかりの著名人に迫ります。

と大矢 勇氣さん

車いす陸上競技選手

Q 初出場のパラリンピックを振り返って。

レース当日は「いつも通りの走りができたらメダルが取れる」という自信から、楽しみな気持ちでいっぱいでした。僕一人の力ではなく、コーチや兄との練習が生かされ、銀メダルにつながったと思っています。

Q 車いす陸上の魅力は。

体力だけでなく、競技用車いすを操る技術力も問われます。一回のストロークでいかに力強くこぎ進めるかが大事で、ただ体力があるから、スタートダッシュが良いから、というだけでは勝てません。そこが、車いす陸上の奥深さだと思います。

Q 競技を始めたきっかけは。

23歳の時、知人から全国障害者スポーツ大会の県予選に誘われたことです。「楽しめたらいいな」と軽い気持ちで出場したところ、優勝し、県代表に選ばれました。翌年の全国大会では自分以外の全員が競技用車いすで、あつという間に抜かされてしまいました。その時の悔しさから「車いす陸上をやりたい」と家族に相談して、高価な競技用車いすを買ってもらいました。初めて乗った時には今まで感じたことのない速さを体感し、陸上競技にのめり込んでいきました。

Q 今後の目標は。

再来年春に神戸で開催予定の世界パラ陸上競技選手権大会では、東京パラリンピックで負けた米国の選手にリベンジを果たしたいです。さらに、同年開催のパリパラリンピックで金メダルを取れるよう、得意のスタートダッシュを磨くことはもちろん、中盤から後半にかけてのスピードアップを課題に取り組んでいきたいです。

(インタビュー 県民だより編集部)